

3月7日(土)～4月4日(土) 満月セレクト

－ 今回のセレクトター ご紹介 －

Music Selector : コシミハル



コシミハル

音楽家。3歳よりピアノを習い始め、8歳より作曲を始める。オリジナル作品の他、フランス近代音楽やシャンソン、ジャズのスタンダードを取り上げた作品を発表。またCM、映画、舞台のための音楽を手掛ける。'89年広告音楽競技大会作曲賞受賞。'97よりバレエとダンスで綴られる舞台「Musique-hall」で演出、振り付けを手掛け、'03にベルリン・ジャズフェスティバル招待作品として好評を博す。2013年、「クルーナー」(20年代後期から30年代にかけて流行した、甘く囁くように歌う歌手)に焦点を当てたカバーアルバム「マダム・クルーナー」を発表。近年はトリオ演奏で古いスタイルのヴィンテージライブを開催している。

今回のセレクトCD

- 

1. **Tommy Dorsey and Frank Sinatra / Stardust** (RCA 61073-2)
これは若き日のフランク・シナトラがトミー・ドーシー楽団の専属歌手だった1940年から42年の録音です。今も多くの人に歌い継がれている名曲の数々、「スターダスト」「ナイト・アンド・デイ」などを、シナトラの声はまるでひとつの楽器のように、バイド・バイバースの美しいコーラスと共に、柔らかく美しい音を響かせています。
- 

2. **Jean Sablon / The French Swinging Troubadour** (EPM Musique 995712)
フランスのピング・クロスビーと言われたジャン・サブロンは、1930年代に、当時はまだベルカントが持て囿されていたパリで、初めてマイクロフォンで歌った人です。フランス民謡の「アヴィニョンの橋の上で」、ディズニー映画の「三匹の子豚」など、幸福なシャンソンがいっぱい!そしてジャンゴ・ラインハルトの素晴らしいギター演奏も聞き所のひとつです。
- 

3. **Josephine Baker / Un message pour toi** (Naxos Nostalgia 8.120630)
アメリカ生まれのジョセフィン・ベーカーは20年代にパリに渡り、レビュー「La revue nègre」で一世を風靡。くねっと捻ったポーズの腰にはバナナの総飾り。大胆でユーモラス、波瀾万丈な人生を送った彼女の歌うシャンソンは、震えるようなビブラートでダンスのように澁刺と音を弾ませます。コール・ポーターの「I've got you under my skin」は、フル・ベルグオーケストラの小粋なラテンのリズムが光る一曲です!
- 

4. **Trio Lescano / Le Grandi Voci Della Canzone Italiana** (Replay RMCD 4214)
1930年代にイタリアで活躍したオランダ生まれの三姉妹のコーラスグループ、トリオ・レスカノ。寄り添うようなクローズハーモニーは可愛らしさと高い音楽性を持っていて、軽やかで親しみ易く、楽しさに溢れています。中でも「Tornerai」は、ギター、ピアノなどの簡素な演奏に男性コーラスQuartetto Funaroが加わり、とても素敵です。
- 

5. **Clifford Brown / Clifford Brown with Strings** (Emarcy UCCU-5025)
最後にこの5枚のCDの中でいちばん新しいアルバム。と言っても1955年ですが、僅か25歳でこの世を去ってしまった天才トランペット奏者、クリフォード・ブラウンの演奏です。ジャズと言えば、アドリブがその魅力のひとつですが、このアルバムのクリフォード・ブラウンは、とてもスティックに素晴らしいテクニックでメロディーの輪郭を輝かせています。大名盤!